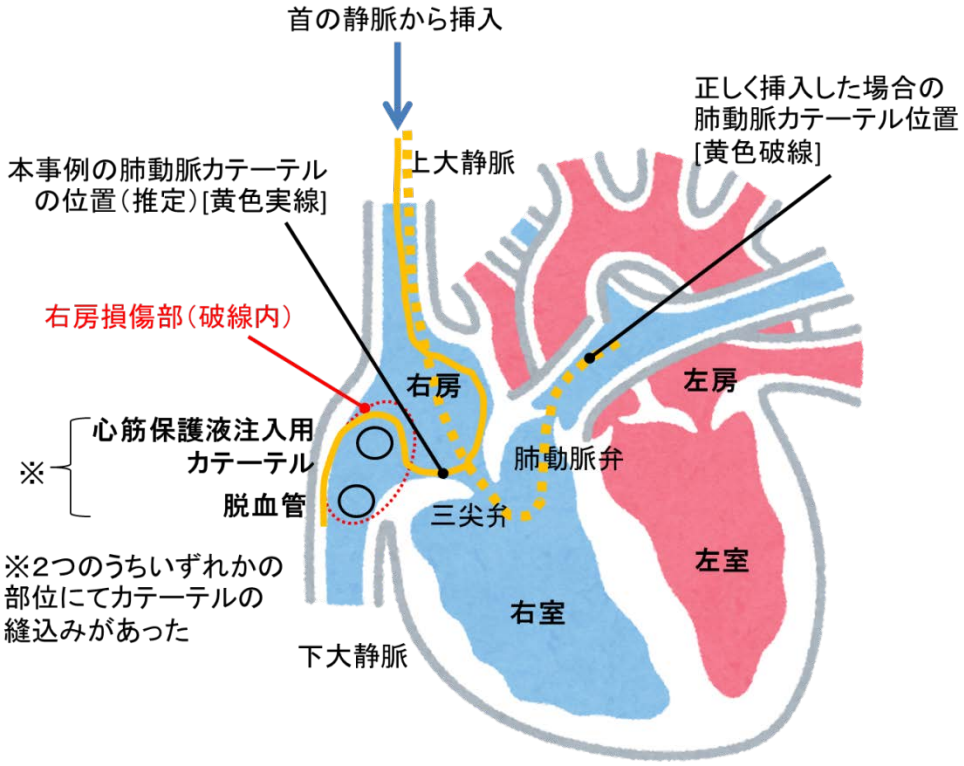
＜参考資料＞

肺動脈カテーテルについて

肺動脈カテーテルは首の静脈から挿入し、その先端を、心臓の右房（全身から静脈血が還ってくる場所です）から右室（右房に集められた血液は右室に流入し、右室から肺に送られます）を通過させ、最終的に肺動脈（右室から肺に向かう血管です）にまで進めて留置するものです。カテーテルの先端が胸腔内に入ると、監視している圧波形が呼吸性の変動を受けて大きく変化します。右房内、右室内、肺動脈内ではそれぞれ特徴的な波形を示しますので、通常はＸ線透視装置を使用せずにカテーテルを挿入することができます。

ただし、定められた手順で挿入した場合においても、稀に、右心室または肺動脈に挿入できないことがあります。



図：肺動脈カテーテルの心臓内での正しい位置は黄色破線の通りである。首の静脈から挿入したカテーテルを、上大静脈を通過させて右房、さらに三尖弁を通過させて右室、最後に肺動脈弁を通過させ肺動脈内にカテーテルの先端を留置する（首からは、カテーテルの根本部分が出ている状態である）。首から出ているカテーテルを動かすことで先端の位置を調節する。本事例では、黄色実線で示すようにカテ―ルが右房内でたわみ、カテーテルの先端から約 5cm の部位で右房壁へのカテーテルの縫込みがあったと推定する。